ではない。尚雑工業労働者を抱擁して居る点に於ては其数に於ても、其の実力に於て我が総同盟の右に出づるものはないであろうことを信ずる。

全屋産業労働者の内部的結合成る！

全屋産業労働者の内部的結合に就き、大正十四年臨時大会は総同盟の組織精神として努力し来りし産業別組合に向つて可及的に適当なる方法を以て、全国的組合組織の必要なる事を力説し、其の具体的会合の開かれん事を期待した。

大正十四年十月六日午後五時より総同盟本部にて開かれたる総同盟金屋産業合同委員会は、大阪機械、東京鉄工、大阪電線、尼ヶ崎機械、因の島労働、王造船、大阪伸銅、其の結果として種々なる大会同の具体的意見が出来上つた。

次の如き申合せ事項が出来上つた。

討議され、

一、金屋産業合同委員会を設置すること。
二、委員会の構成、委員は各組合一名とす。
三、委員会本部を大阪に置く。
四、事務取扱は大阪方面の委員に一任すること。
五、合同委員会の基金及経常費を兼ねて、各組合は組合員一名につき金五厘宛を拠出し、経常費は二厘の範囲を以てすること。

越えて十一月十五日より三日間、大阪に於て第一回委員会が開かれて、外らく望まれて居た金屋産業合同の仏規約を見るに至つた。

更に此の計劃に基き大阪機械と大阪伸銅とは即時合同をなして、大阪金屋労働組合を成立せしめた。其の他今回定のところの産業別整理の行はれたる組合はない。

全国組合会議提議に就て！